

1. 平成15年度消防庁総合防災訓練等の実施

第1 消防庁総合防災訓練の概要

消防庁は、9月1日(月)の「防災の日」に政府の総合防災訓練に加わり、地方公共団体と連携を図りながら、南関東地域直下の地震及び東海地震を想定した総合的な防災訓練を実施。

1. 訓練実施時間

6 : 4 0 ~ 1 2 : 0 5 (本部設置運営訓練は、7 : 5 0 ~ 1 2 : 0 5)

2. 訓練想定地震

南関東地域直下の地震：埼玉県南部 マグニチュード7. 1

※東海地震を想定した訓練は、予知対応型訓練（警戒宣言発令に伴う訓練）であるため、具体的な震源・

地震の規模は想定しない。

3. 対策本部の設置

—消防防災・危機管理センター— 消防庁災害対策本部

4. 緊急通信連絡本部の設置

—消防大学校—

5. 訓練内容

○職員参集訓練

○本部設置運営訓練

○職員派遣

- ・政府本部等への派遣（緊急参集チーム会議、緊急災害対策本部、政府現地本部政府調査団）
- ・消防庁先遣隊派遣（入間市、静岡県菊川町へ衛星車載局車及び緊急消防援助隊支援指揮車に

より派

遣）

○情報伝達訓練

・地方公共団体、官邸、関係省庁との間における被害状況及び応急対応の実施状況並びに観測情報、

注意情報、予知情報、警戒宣言、地震防災応急対策の実施状況等のより実践的な情報収集伝達訓練

- ・東海地震注意報及び警戒宣言を踏まえた各種支援要請等の収集伝達訓練
- ・地域衛星通信ネットワーク、衛星車載局車等の活用
- ・緊急通信本部との通信訓練

○緊急消防援助隊の派遣要請等訓練

- ・市町村の消防機関で構成される緊急消防援助隊の広域応援要請と効果的部隊展開のシミュ

レーショ

ン。

・緊急消防援助隊部隊を遠隔地かた自衛隊の固定翼機により輸送。（北海道隊（札幌市消防局救助隊員

14名）、福岡県隊（福岡市消防局救助隊員等12名）、愛知県隊（名古屋市消防局IV型救

助工作車2台

及び救助隊員8名）が入間会場で救助訓練に参加）。

※今年度、初めて実施。

6.大臣、副大臣及び政務官の政府本部等への派遣

- 片山総務大臣
 - ・緊急災害対策本部の本部員として参画（官邸）
- 若松副大臣
 - ・南関東地域直下の地震政府調査団員として派遣（入間市）
- 岩永政務官
 - ・東海地震政府調査団長代理として派遣（菊川町）

第2 地方公共団体の防災訓練の概要

1. 地方公共団体における総合防災訓練の計画

	①防災の日を中心とした 防災週間（8/30～ 9/5）中	②防災週間 以外の日	③計
都道府県	36団体	43団体	79団体
市区町村	996団体	1,357団体	2,353団体
参加団体	約31,200団体	約2,500団体	約56,200団体
参加人員	約265万人 （うち、南関東地域直下の地震 及び東海地震訓練 約223万人）	約114万人	約379万人



（注）表中の数値は、延べ数

2.南関東地域直下の地震に係る防災訓練の対象地域の都県市の中央会場等

都県市名	中央会場	参加見込人員	実施日
茨城県	阿見東部工業団地（阿見町）	約2,400人	8/30
埼玉県	彩の森入間公園（入間市）	約12,000人	9/1
さいたま市	大間木公園（さいたま市）	約2,100人	9/1
千葉県	八千代広域公園用地（八千代市）	約4,200人	9/1
千葉市	千葉市立さつきが丘中学校（千葉市）	約6,900人	9/1
東京都	北川原公園（日野市） 他	約28,500人	9/1



神奈川県	淵野辺公園一帯（相模原市）	約4,200人	9/1
横浜市	横浜市所有地（金沢区鳥浜町）	約1,600人	9/1
川崎市	麻生水処理センター（麻生区）	約2,000人	9/1

3. 東海地震に係る防災訓練の対象地域の県の中央会場等

県名	中央会場	参加見込人員	実施日
山梨県	災害対策本部運営訓練（県庁内）	県庁職員等	9/1
長野県	災害対策本部運営訓練（県庁内）	県庁職員等	9/1
岐阜県	災害対策本部運営訓練（岐阜県防災交流センター他）	県庁職員等	9/1
静岡県	菊川運動公園（菊川町）	約2,600人	9/1
愛知県	刈谷市総合運動公園	約26,300人	8/31
三重県	鳥羽市中央公園他	約5,000人	9/7



（注）長野県は、10月17日に中野市においても実施（参加見込人員約3,000人）。
 三重県は、東海地震を想定した訓練を実施。
 東京都及び神奈川県は、前項に掲載。

4. 主な訓練会場における重点訓練項目

(1) 八都県市合同防災訓練（埼玉県総合防災訓練）

- ① 防災関係機関の連携強化
- ② 他圏域の広域応援の受入
- ③ 入間基地の機能を活用した訓練の実施

(2) 静岡県総合防災訓練

- ① 県と1町（単独）との共催としては、初めての総合防災訓練（会場型）として実施。
- ② 建設中の静岡空港を活用。
- ③ 防災船「希望」等の船舶を活用し、御前崎港から人員・物資の大量搬送を実施。
- ④ 自主防災会。ボランティア団体を中心となり、災害弱者の避難誘導・避難生活の支援を行い、自主防災組織の防災力の向上を図る。
- ⑤ 「レスキュー・ナウ」を活用した聴覚障害者への情報提供・活用訓練。



（注）文章中に掲載している画像は、八都県市合同防災訓練会場の様子を写したものです。

頑張りました！（その時に備えて「第24回八都県市合同防災訓練」実施）



防災の日の9月1日、入間市（幼年消防クラブ連合会85名・消防少年団71名・女性防火クラブ24名）は、入間市の県営彩の森公園を主会場として行われた「第24回八都県市合同防災訓練」（埼玉県・入間市主催）に約1万2千人の住民、小中学生、消防、警察、自衛隊らとともに参加しました。

当日は、薄日の差す蒸し暑い中、幼年消防クラブ員による防火パレードや和太鼓、組体操などの演技と、消防少年団と女性防火クラブ員が初期消火訓練に参加し、多くの来賓の方や市民に入間市の防災に対する姿勢をPRするとともに、防火意識の啓発を図ることができました。

訓練では新たな試みとして、営業中の大規模商業店舗からの避難訓練や映画館からの避難経路の確認を行い、西武池袋線入間市駅での旅客救出訓練も実施され、航空自衛隊入間基地では、救援物資の受け入れ態勢などの受援検証も行われました。

メイン会場の彩の森入間公園では、住民らが応急処置や避難所の運営などを体験。防災ヘリによる救出訓練なども行われ、政府調査団として視察に訪れた小泉首相からは、「今年は、関東大震災から80年。災害に強い地域づくりに向けて、これからも努力をお願いします」と、激励がありました。

